

山口大学埋蔵文化財資料館 第22回企画展

吉田遺跡

発掘調査速報展 2006



開催場所 国立大学法人山口大学 埋蔵文化財資料館
開催期間 平成 18 年 11 月 20 日 (月) ~平成 19 年 3 月 2 日 (金)
開館時間 午前 9 時~午後 5 時
休館日 土・日曜日、祝祭日
※団体での観覧に限り、事前の連絡で開館します
入館料 無料
主催 国立大学法人山口大学 埋蔵文化財資料館

2006年 山口大学構内遺跡（吉田遺跡）の動向

国立大学法人山口大学の県内5ヶ所のキャンパス（山口市：吉田地区・白石地区、宇部市：小串地区・常盤地区、光市：光地区）は、いずれも周知の埋蔵文化財包蔵地上、つまり遺跡上に立地しています。中でも山口市吉田キャンパスは、山口県を代表する複合遺跡（複数の時代にわたる遺構・遺物が埋蔵されている遺跡）である「吉田遺跡」内に位置しています。吉田遺跡では、当館の継続的な調査・研究によりこれまでに多くの成果を得ており、徐々に遺跡の全貌が明らかになりつつあります。

2006年の上半期、吉田キャンパスでは大規模な施設整備事業が計画され、それに伴いキャンパスの2ヶ所で発掘調査を実施しました。今回の企画展は、その調査成果の速報展となります。とれたての吉田遺跡最新情報をお楽しみ下さい。

農学部附属家畜病院改修工事に伴う発掘調査

平成18年6月12日から8月23日にかけて、農学部附属家畜病院の新営工事に伴う発掘調査を実施しました。農学部附属家畜病院は、吉田キャンパスの南東端部に位置します。調査地周辺では、過去にも古代（奈良～平安時代）の掘立柱建物跡や、「官」という文字が書かれた墨書土器をはじめとして、円面硯、帯飾り、製塩土器など官衙（古代の役所）の存在を強く示唆する遺構や遺物が多数発見されているため、今回の調査においても古代に関連する資料の確認が期待されました。

調査の結果、旧地形が東から西に降下する斜面地上に、大小2棟の掘立柱建物跡が確認されました。建物の規模は、大型のものが残存部分のみで長軸5.4m×短軸3m、小型のものが長軸3m×短軸1.5mの規模を有していました。両者は東西に並んで築かれています。大型掘立柱建物跡は長軸を南北方向に、小型掘立柱建物跡は長軸を東西方向に向けていました。また、両者の間には敷地を区切るためのものと推定される溝が存在することも確認されました。

また、特筆すべき成果としては、大型掘立柱建物跡の柱穴に3本の柱材が残存していたことが挙げられます。残っていた柱は直径約20cmもある非常に立派なものでした。一般的に、遺跡の発掘調査では建物の柱は痕跡として頻りに確認されるものですが、柱自体が腐食せず発見される例は極めて希であり、非常に重要な発見といえます。

これらの遺構の直上を覆う堆積層からは、土器や木器などの遺物とともに多量の流木が検出されました。このような状況から推測すると、この2棟の建物は、土石流などの自然災害により廃絶したものと考えられます。建物の時期に関しては、遺構面直上層から出土した土器に平安時代以降のものが見られないことから、奈良時代に廃絶したことが判明しています。

今回の企画展では、出土した柱・土器・木器をはじめとして、吉田遺跡の過去の調査で出土した古代の官衙関連資料の展示も行っています。



教育総合研究センター改修工事に伴う発掘調査

教育総合研究センター（共通教育棟）改修工事に伴い、平成18年3月27日から4月28日まで予備発掘調査を行い、引き続き6月12日から8月8日まで本発掘調査を行いました。

予備発掘調査では、講義棟中庭に設定したG調査区で弥生時代の溝状遺構、本館北側のA～C調査区で弥生時代～古墳時代中期の遺物包含層、河川を検出し、大量の遺物が出土しました。なお、本館北側では工事施工時の立会調査でも大量の遺物が出土しました。また、本館南側のD～F調査区では、弥生時代～古墳時代中期の遺物包含層、河川、ピットを検出し、大量の遺物が出土しました。

本館南側について行った本発掘調査では、調査区西部で古墳時代の河川を検出し、さらに同河川の下からは縄文時代晩期の河川を検出しました。

以上のように、今回の発掘調査によって、吉田構内の歴史環境を復元する上で貴重なデータを得ることができました。



山口大学埋蔵文化財資料館 第22回企画展

『吉田遺跡 発掘調査速報展 2006』

お問い合わせ先

山口大学埋蔵文化財資料館

〒753-8511 山口市吉田 1677-1

TEL/FAX 083-933-5035

E-mail yuam@yamaguchi-u.ac.jp

